

南丹市総合教育会議議事録

<令和元年度第1回>

令和2年3月17日

令和元年度第1回南丹市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年3月17日(火)
開会：午後4時00分 閉会：午後5時30分
- 2 場 所 南丹市役所 2号庁舎3階 301会議室
- 3 議 題
(1)「第2次南丹市子どもの読書活動推進計画」について
(2)地域道徳教育について
(3)長寿命化計画に伴う教育施設の整備について
(4)教育課題について
- 4 出席委員
西村市長
木村教育長、武田教育長職務代理者、高屋委員、城戸委員、湊上委員
- 5 会議に出席した職員
＜説明員＞ 中川教育次長、榊教育参事、福井教育総務課長、
山内学校教育課長、湯浅学校教育課参事、寺田社会教育課長
＜事務局＞ 船越市長公室長、國府企画財政課長、片山企画財政課企画係長
- 6 傍聴人 3名
- 7 会議の経過

＜1＞開会（進行：事務局）

◇市長あいさつ

総合教育会議につきましては、従来の教育委員会制度をさらに超えて、市長部局と教育委員会部局が綿密に、必要な場合はスピーディーに連携しながら教育を進めていくということの一つの目標として、なおかつ、総合教育会議において教育大綱を市が定めて、教育委員会と共に地域の子育て、また成人の教育環境などを整えていく、極めて大事な会議の場でございます。

今日、コロナウイルスのことも後ほど議論の中で出てくるのではないかと考えております。幸い南丹地域では、感染者はゼロで、南丹地域外から市内の病院に搬送された方もゼロでございます。段々と感染者数が拡大する中で忍び寄ってくるような気もいたします。そんな中、学校の休校の取り組みにつきましても、学童保育のフォローも含めまして、それぞれの学校の教職員の皆様方には、家庭への電話連絡や必要に応じた訪問なども行っていただいていると聞いております。また、大きな諸会合が延期や中止なり、非常に残念ではございますが、拡散を防ぐための取り組みを精力的に行っている。市もコロナ対策本部会議を設置いたしまして、定期的に本部会議を開催しながら、適宜必要な措置を

取っていくということで、2月3日に立ち上げて既に数回の本部会議を行いながら、情報収集や京都府との連携、病院・医療関係者との連携を行っているところでございます。

さて、本日の総合教育会議につきましては、教育の大切な課題に関わります。一つは道徳教育の充実に関する内容について、さらには子どもの読書活動の推進計画を策定し、本市の子ども達の想像力・思考力を高めていく、そういった能力を育てていくための新たな計画の策定について、教育委員の皆様方に十分ご審議を賜りながら、市と教育委員会が連携して、この地域の子供達を、国と地域の立派な担い手として育てていきたい。そんな思いでありますので、皆様方にはしっかりご検討・ご審議を賜りまして、方向付けをいただきますようお願いを申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

◇教育長あいさつ

教育委員会を代表いたしまして、西村市長様に一言ご挨拶させていただきます。

日頃は、教育行政につきまして西村市長様はじめ、市長部局と連携を密にさせていただきまして、教育の中身を充実しているところでございます。今日は先ほど市長様がおっしゃいました色々な課題につきまして、教育委員様からご意見を賜りたいと思っております。今後とも西村市長様におかれましては、より一層、教育活動の充実に向けての協力・連携を密にお願いをいたしまして、簡単ではございますがご挨拶にかえさせていただきます。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

◇南丹市総合教育会議運営要綱の改正について

[事務局]

「南丹市総合教育会議運営要綱」につきましては、平成27年7月7日の総合教育会議で決定されたものです。平成31年4月1日に南丹市が機構改革を行いました。裏面の第6条のところ、庶務の定めのところでございますが、企画政策部がなくなりまして市長公室となりましたので、今年度第1回目の会議の本日付で、下線部分の変更をさせていただきたいと思っております。ご承認の方をよろしくお願い申し上げます。

(一同承認)

<2> 議事（進行：市長）

[市長]

教育委員会の皆様方には特に学校施設、社会教育施設、そういった施設整備、環境を整えていくという意味でハード面の整備について、過去にない大きな予算を組んでいます。しかしながら未来に繋がる、将来のまちづくりに繋がる大切な基盤作りを皆様方と共に行っているということで、可決いただいた上は確実な執行のために努力をしまいたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それと共にソフト面についても一定の子育ての環境を整えていく上で大切

な内容でございます。「第2次南丹市子どもの読書活動推進計画」に取り組んでいきたいということで議題とさせていただきたいと思っております。

(1)「第2次南丹市子どもの読書活動推進計画」について

○教育委員会事務局から資料により説明

【要旨】

- ・現在の読書推進計画については、合併後の平成18年4月にまとめられたもので、当初は5年を目処に見直す計画であったが、今まで見直しが出来ずにいた。
- ・市長が変わり、政策の柱として読書活動の推進力をあげていただき、昨年度末に第2次南丹市教育振興基本計画を策定したことを受け、これをベースに新しい読書活動推進計画の作成に取り組んだ。
- ・見直しにあたっては、ことばの力育成支援員の皆様とのワークショップや会議を2年間にわたり何度も重ねた。
- ・南丹市総がかりで子どもの育成推進をしていくため、これをツールとして、PTAや運営委員会等、色々なところで活用していきたい。

【委員】

ご説明いただいたブックスタート事業について、想像以上に良い形になっているのが伝わって嬉しい気持ちになりました。もう一度、教えていただきたいのですが、図書館の職員さん達が検診時に来られて、親御さんと子どもさんに絵本を読まれるということ。その時に絵本をプレゼントされる。それは初めてもらえる本としては、兄弟で重複することがあるかと思っております、その辺りはどうですか。

【説明員】

ブックスタートを進めているNPOが本を比較的に安価であつておられまして、そのリストにブックスタートの本のリストがあります。その中から図書館職員が選んでいます。今回は、まず1冊、1種類をお渡ししようと思っております。お子さんが2人目とか3人目とかになると、ひよっとすると本が重複するかもしれない。その場合は、あと2種類の本を用意して、基本とするのはこの本と決めました。「これ、持ってる」となった時に「じゃあこれを」ということで2種類、合計3種類の本を用意しています。令和2年度から始めるので令和3年度以降については、この1年間の様子を見ながら、本をローテーションしていくことも考えているところです。

【市長】

一人家庭・一人のお母さん・お父さんだけで、こういう取り組みをしていくのはなかなか難しいので、そういう意味では読書への関心を広げていこうという集団作り、大人の組織化、グループの活動作りをどうやっていくのかというのが非常に大切だと思います。その辺りはこれから組み立てていく、作っていく必要があると思います。何か具体的に、ヒントになるような計画・プランとがあれば教えていただきたいと思います。

〔説明員〕

先ほどもありましたように、他の課との連携という点を考えながら、例えば保育所に貸していただいて、保護者の方と一緒におはなし会をすとか、子育て支援課の何かの催しに図書館が関わって、保育所の推進を進めていくような形で、家庭ごとにとというのは難しいと思うのですが、そういう組織を活用させていただきながら、集団での読書活動の取り組みが出来たらいいと考えております。

〔市長〕

同年代のお子さんを持ったお母さん達は、ママクラブとか色々な形で集まっていますので、そういうところと連携していけたらいいなとは思っています。

〔説明員〕

地域の部分で、もちろん家庭の部分でも繋がってくるとは思いますが、ここに書いていますが、読書会とか地域で本の交換会、そういったことも企画していただけるような働きかけも出来るのかなと話をしております。まだ具体的ではないのですが、今すでにやっているのは、吹き出しの1つ目、著者を迎えた講演会。これは数年来、図書館で取り組んでいます。こういったことも宣伝もしながら、読書の楽しさを働きかけていくということも繋がると考えております。

〔市長〕

下に保育所・幼稚園・学校の記載が書いてあります。それぞれ所属している園・学校からの、特に地域とか個々のお父さん・お母さんだけでなく、地域への働きかけが非常に期待されますし、影響が大きいと思っておりますし、楽しみだと思っております。

〔委員〕

保育所・幼稚園・学校の記載の中で、これは南丹市の公立だけで考えていますか。それとも聖家族幼稚園や新しく出来る保育所もこの中に含めていますか。というのは、私立の幼稚園・保育所に行っても、その子達は公立小学校にあがってきます。せっかく良い計画を立てているので、今の段階で一度、聖家族幼稚園の方に「こんな計画を作っていますが一緒にやりませんか」と声をかけてもらうのも、南丹市にとってはいいことだと思っております。

〔市長〕

私学は幼稚園では聖家族、保育所ではルーテル会という福祉法人が4月になったら具体的に動き出しますので、そこのアプローチとか一緒に巻き込んでいくという必要性を指摘いただきました。

〔説明員〕

特に園部は、ご指摘いただきましたように私立の幼稚園・保育園があります。他の3ブロックについてはそういったことはありませんが、保幼小中の連携事

業は予てから数年間やってきていますが、その中でやはり私立も入っていただくという課題はあがっています。これはあくまでも南丹市の子ども読書推進計画ですので、色々ご意見いただく中に、このツールを活用して説明をすると、例えば保育所にこれを持って説明に行きましたら「こういう計画のここの部分を担っていただくこととなります」と、全体計画の中の「ここです」という説明をしていくことが有効かなと思っています。そうすると「ここではこんなことしている」「ここはこんなことしている」という連携になるとと思っています。今のところ具体的に連携は出来ていないのですけれども、これが出来た暁には、今ご指摘いただいたことも含めて、お話に回りたいと思います。

〔委員〕

資料左上の吹き出しのところに、図書館に行かなくてもできる、ネット検索、貸出予約とありますが。検索と予約だけで、その次というのは何か考えておられることがあるのですか。

〔説明員〕

ネット検索と貸出予約というのは、現時点でこちらのサイトから出来る中身なのです。今回もここに書いたのは、それをご存じない方が多くて、予約できるのか、図書館に行ったらこの本がどこにあるのか分かるのですが、それをご存じない方もおられますので、これで啓発していくことをまず考えております。予約が出来てこの本があると分かったら、例えば美山の人が、日吉の図書室にあると分かたら取り寄せてもらうことも出来ます。そういう啓発をしていきたいと思っています。

〔委員〕

なぜこんなことを聞くのかというと、市長が「本を読もうよ」というふうに発言いただいて、それに対して素晴らしいものが出来上がっていますけれども、図書館に行けない、行きにくい方がいらっしゃいます。もしもその手当てがあれば、より一層多くの方々が本に親しめる状況が作れるのかなと思っています。例えば、以前ですと移動図書館とかありましたけれども、色んな形でやめた経過もあるのですけれども、それを是非ともということではありませんが、何かそういう方が本に親しめる環境は少し必要だと感じました。

〔市長〕

特に交通弱者に届ける方法を何か考えられないかということですが、昔は府立図書館が移動図書館車をずいぶん長い間走らせましたけれども、今はすでに役割を終えたということで継続されていません。

何かアドバイスやこういう方法もある、あるいはこれからこういうことも考えていく必要があるというお話が何かございますか。なければ検討課題としたいと思います。

あと、子どもが集まる学童保育もネットワークの中に入れていただけたらいいかなと。ただ、十分な本の配置が難しいと思いますが可能な範囲で考えられる

のかなと思います。

【委員】

各図書館で開館時間が異なっていますので、例えば夏の時期だけ9時からにするとか、暑い時期だけ早く開館されて、図書館をクールシェアの場にしていただくということはいかがでしょうか。

【市長】

図書室の開館時間について、もう少し季節や利用状態に合わせて柔軟に考えられないかというご質問です。

【委員】

それと合わせまして、住民の方がおっしゃっていましたが、朝よりも夜も嬉しいと、女性の方でしたがそんなことをおっしゃった方もいました。

【説明員】

4館、旧町ごとに時間が異なっていましたので、一定、社会的な実験もしながらどういう方向がいいのか、ここ数年進めておりまして、最終的にはその地域が必要とする開館の仕方、時間、運営というものを、見定めながら進めているところでございます。

【市長】

今日、ご意見をいただき、今後計画をさらに磨き上げをいたしまして、具体的な取り組みを進めてまいりたいと思います。読書活動の推進計画については、一旦、議論を終了させていただきたいと思います。

(2) 地域道徳教育について

○教育委員会事務局から資料により説明

【要旨】

- ・新学習指導要領が、小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から全面実施となる。今回の改訂は、近代教育の3回目の大きな改革ともいわれ、今までの教育から大きく変わり、道徳が教科化されるなど大きな変革の時期を迎えている。教材を通して、深く考えたり、色々と議論をしたりするなど、自分の実行力に繋げていくのが今求められている道徳科である。
- ・今年度の全国学力学習状況調査によると、道徳的価値観が知識理解としては頭にあっても、行動化するまでには至っていないという現状である。
- ・南丹市では、3年前から順次小学校にコミュニティ・スクールを導入し、地域・保護者・学校が一体となり、その学校区の子ども達を育てていこうという仕組みをつくっている。令和2年4月から中学校にも全面的に導入する。
- ・文部科学省の研究事業に手を挙げようと考えている。研究の方向性は大きく分けて2つ、1つは教職員の指導力の向上。指導方法、教材などを工夫し、「考え、議論する道徳」の新しい授業の展開、もう1つは地域・家庭・学校が目指

す子ども像を共有した上で、その実現に向かって地域コーディネーターが地域と学校を繋いで地域ぐるみで道徳を進める「地域道徳」の推進。

- ・そのスケジュールは資料「道徳教育の抜本的改善・充実に係わる支援事業」のとおり。

[教育長]

この事業は文科省の事業で、京都府が申請をし、文科省の認可を受けて取り組む事業です。私も文科省へ直接行って説明をさせていただきました。文科省の担当者からは「地域道徳」という取り組みは初めて聞きますと言っていました。「いい取り組みですね。どんどんやってください」ということで、府教委に手を挙げていただくよう連携をさせていただきました。そんな中で府と京都府の総合教育センターの講座授業とも色々連携をさせていただいて、南丹市と京都府と総合教育センター、この3つで道徳を高めていこうとするものであります。特にコミュニティ・スクールを活用した中で地域の教育力も高めながら、昔ながらの地域ぐるみで道徳性を高めていく。今、近隣の間人間関係が非常に希薄な時代に入っております。そういう中ではやはり南丹市の特色ある取り組みを優先的にしていただいたり、地域によっては人権的な、人にやさしく接する地域もあれば良いと思いますし、色々な自然を大事にする取り組みも良いと思います。道徳性とは色々な項目がありますが、その項目に沿ってそれぞれの学校がそれぞれの地域性を高めるために、地域と学校が連携した中でこの地域道徳を広げていくというものでございます。色々な学校の取り組みがこれからスタートしますけれども、色々な機会を通して報告等もさせていただきたいと思います。これからこの計画に沿って地域道徳を南丹市の特色の一つとして進めていきたいと思っております。どうかご理解をいただきたいと思っております。

(3) 長寿命化計画に伴う教育施設の整備について

○教育委員会事務局から資料により説明

【要旨】

- ・本計画は、国の補助金の採択基準となるため、必須の計画である。
- ・学校施設では、20年を経過する建物が80%を超えている。社会教育施設も20年以上経過する施設が70%を超えている状況。
- ・従来の建替え型と長寿命化のコストを比較した上で、20年ごとに大規模改修、長寿命化の改修耐修を繰り返し、建物を80年間維持していく計画としている。
- ・各施設の改修を出来るだけ平準化していく計画であるが、財源が必要であるので、財政当局と調整しながら計画を進めていきたい。

[市長]

この件については、令和2年度の予算の提案をしているところでございます。大変限られた財源ですので、厳しい状況ではございますけれども、学校については令和元年度にもプールの改修、社会教育施設の改修なども行ってまいりました。幸いプールの関係は文科省の補助金を何とかちょっともらえました。園部の

公民館についても地方創生の拠点整備交付金が少しあたり、八木の公民館については2分の1あたりでした。少しはお金を取ってきていますので、出来るだけ市の負担を軽減しながら、やるべきことをやっていかないといけない。ただ、これから先、大規模災害などどんなことがあるか分かりません。そういう時には場合によっては、繰り延べとかも突発的に出てくることあるかと思いますが、スケジュールを立てていただいておりますし、前年度に調査をしながら事業費を確定して補助金取りなり、予算の計上をしていく取り組みを今後も続けていく必要があると思います。来年もずっと苦しい状態が続いてまいりますけれども、許せる範囲内での最大限の努力をして、このプランを達成していく努力をしてまいりたいと思います。

〔委員〕

1つだけ気になるのが、学校の再編が一通り済んで、子ども達も順調に良い環境の中で勉強できていますが、以前も出たり入ったりした話がありました。今、小中一貫校や連携とか少し学校の形が変わってきているようなところが見受けられます。小中一貫が良い、悪いという話は全く別にしまして、そういう議論というのが教育委員会で出来てないです。そういうことも有り得ると考えながら、計画についても微妙に変えていく必要があるのかという感じはします。そういう要素もあるということだけを発言させていただきたい。

〔市長〕

近隣では、高田中学校と川東小学校が川東学園となり、小中一体的な運営になりました。人口が増えているところはいいですが、減っているところは学校教育施設の配置については、やはり教育委員の皆様方のご発意によって、こちらから今すぐにとやかくは申し上げるつもりはありませんが、必要があれば方向付けを十分検討いただけたらと思っております。これについては特に親御さん、地域のお考えということも無視は出来ませんので、具体的にいうと、例えば美山中学校と美山小学校を統合していくというのはどうかと、地域でも盛り上がり子どももそうしたいと、教育委員会の中でも議論が煮詰まってきたという段階になったら検討していかねばならないと思います。

〔説明員〕

人数的には、例えば美山小学校も0歳からの人数を調べております。だいたい横ばいの予定です。ただ、将来的に10年、20年先になると美山以外の所でそういう考えが出てくる場面もあるかもしれません。小規模の学校も現在ありますので、そういった地域については、課題になってくると思っております。今、市長がおっしゃったように地域のご理解、教育委員さんの色んなご意見をいただきながら一緒に考えていきたいと思っております。現時点では、そこまでは至っていないと感じております。

〔委員〕

流れがそういう形で進んでいますので、何がいいのか分からずに思っていま

す。「分離がどうだ」とか「完全に一貫型にする」とか「連携」とか色々な形で整理はされているみたいですが、決して一貫が良いと思っているのではなくて、ただ、そういう要素が今後、出てくる感じはしました。

[説明員]

要素は10年、20年先にはいずれ出てくると思いますがけれども、小中一貫校のメリット・デメリットについて、聞いていますと両方ありまして、何がいいかという目的、小中一貫校にする目的も考えながらやっていると、「便利だからやろうか」では課題が出てくる学校も多いと聞いております。働く教職員の中でも、小中の連携がうまく出来るのではないかと期待もありますが、全国的にはデメリットが出ている学校もあるようです。そこは慎重に考えていかなければならない。

[市長]

考えていく節目になるのは、いよいよ大規模な建替え等も検討しなければならない時、一体的にやった方が、子ども達の教育環境としてもいいものが合理的に出来る場合などで、南丹市はまだもう少し先ですね。今すぐには無いと思います。特に殿田小学校・中学校も横に隣接していますが、殿田小学校は建替えたところですし、殿田中学校は大規模改修を令和4年に計画しております。まだまだ使っていくということですが、そこをどうするかというのも考えていかなければ。八木でしたら、八木西と八木東とありますけれども、それも耐震化しましたし、まだまだ使い込んでいかないといけない。もっと将来的に子供が増えた時はいいですが、減った時にどうするかというのは、いずれ考えていかなければならないこととなります。園部は今の所は大丈夫です。うんと先だろうと思います。

[説明員]

子どもの教育が基本ですので、子どもにとってそれが良いか、悪いかということが一番の中心になると思いますので、今後またご一緒に考えていけたらと思います。どうかその時はよろしく願いいたします。

(4) 教育課題について

[市長]

教育の現状・課題について皆様方からの日頃のお考え、気が付いておられることとか、あるいは問題点をご発言いただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

[委員]

先ほども言いましたように、再編後、子ども達は落ち着いて勉強出来ています。大きな問題はないように思っています。ただ、聞いてみますと、中学校あたりから聞きましたが、南丹市は広域ですので、子ども達の教育にはバスが必要不可欠になっております。平日は、スクールバスや自転車の子もいまして、順調に通学が出来ています。土日の中学校のクラブ活動のバスの借上げ料とかも十分に確

保していただいて本当にありがたいです。ただ、デマンド方式で予約する路線バスがあり、その予約がどうしても長期間、例えば1年分の計画を立ててくれということになるようなのです。そうすると学校側としては1年間のクラブ活動の計画を立てるのが非常に出来にくい。特にクラブ活動等での活用となりますと、バスを走らせて欲しいとお願いをしておりますも少人数であったり、都合で休んだり、1つのクラブが急遽中止になったりすると、全く乗らない路線が出てくるらしいです。せっかく準備をしてもらっても乗車が無いということがあるらしいです。そういうことも非常に申し訳ないと思ひまして、何か良い解決方法がないかなど。土曜日のクラブ活動時のバスのことで、ちょっとそんな話を聞きましたので。

[市長]

公共交通としてのデマンドタクシーのことですか。

[委員]

バス予約をしてもらっている。

[説明員]

バス予約というのは南丹市が用意しているマイクロバスのことでしょうか。

[委員]

路線バスでもデマンドという形で、乗客が非常に少ない時があるので、事前に学校側から申請をしてから貸してもらえるバスがあると聞きました。

[説明員]

市営バスのスクール臨時便ということでしょうか。

[委員]

そうです。それをクラブ活動や教育課程に合わせて事前に運行予約をしますけれど、一部のクラブが中止になったり、クラブを休む子が出ると全く乗車無しという無意味な運行となる場合がある。それと長期間にわたって、半年もしくは、1年分の予約を申請してくださいという話もあって、それも予定を立てにくいということがあるようです。

[説明員]

今は、市営バスのスクール臨時便を依頼するとか、学校教育課が所管しておりますマイクロバスで対応するとか、バス借上げ料の予算を学校に配分しまして、それを活用して業者のマイクロバスに乗ることになっているのですが、美山は特に広い校区となっておりますので、マイクロバス1台で対応することは困難であったり、また、生徒数が少ないこともあり、委員のおっしゃったように色々工夫は重ねていますがそれでも苦勞しているという現状はあります。実際に前日なり事前に予約をしていたけれども当日に欠席者が出て誰も乗らないこ

とが生じるというようなことがあるという現状も認識しており、それを今委員がおっしゃったのかなと思います。

〔委員〕

多分、前日予約というのは不可能と聞いている。長期的に予約して欲しいと。多分、前日だと「すみません、運転手さんが確保できません」となれば、クラブ活動をそれによって中止しなければならない。ですから早目、早目に言って欲しいということらしい。

〔説明員〕

早目に予約した場合でも当日、前日になって「やっぱりクラブは行かない」ということになった場合には、できるだけその旨を伝えてもらうように学校にはお願いしています。なんとか良い方法がないものか思案しながらの現状です。

〔市長〕

何とかやりくりしながら手当をしているけれども、完璧ではないということですが、ひとつ今後とも努力をよろしくお願いします。

〔委員〕

教育課程と違うかもしれませんが、読書活動推進計画に沿った提案になります。本で出てくる料理を給食のメニューに再現するような形で、給食と図書がコラボして「コラボ給食」というのを出来ないかと。実際、再現した例がありますので、その本を今日持ってきました。「サラダでげんき」という本があります。これはどういう本かといいますと、りっちゃんという女の子が病気のお母さんのために頑張って元気になるためにとサラダを作っていく物語なのです。そのサラダを作って、食べて、元気が出ましたという話。サラダが出てくるのですが、これを実際、日吉の調理場で再現して、「このサラダはおいしいな」と分かったので、日吉の調理場の各学校、胡麻郷小・殿田小のメニューに出すことになった。初めて出る前に、一回この図書を子ども達に読んでもらいたいということで、胡麻郷小の先生方をお願いをしてメニューが出るまでに、各クラスに読んでいただいてから給食を子ども達に食べてもらった。日吉の調理場の各学校では給食を食べた後に各クラスが調理場の方に感想を書くファイルがあります。毎日ファイルが届いてくるのですが、サラダを食べたことによって、本の最後に元気が出る絵があるのですけれども、子どもがこの絵を書いて「本に出てくるサラダが食べられて元気が出ました」という嬉しい感想もありました。野菜嫌いの子も頑張って食べられた、本に興味が湧きましたなど、色んな感想がありました。

ぜひ、そういう本がありましたら、子ども達が今後、本を読んでいく中で「この本の料理っておいしそう。給食に出来たらいいな」というのを聞いて給食に出すことによって、給食自体もおいしく食べられますし、その給食を食べることによって、その出てきた本にも興味も湧く。給食と図書のコラボをしていけたら、読書の推進にも繋がっていくのではないかと。南丹市でもぜひ取り入れてもらえたらと提案をします。

[市長]

本と生活とを引っ付けた取り組みというのは、読書に関心を持ったり、自分の生活を本を使って向上させると、まさに体験になることですし、ぜひそういう取り組みをやっていただいて。「りっちゃんサラダ」だけでないと思います。他にも同じようなテーマであったり、また違う話題で本と生活を結びつける方法というのもあると思いますし、ぜひお考えをいただきたいというふうに思います。

[委員]

私、民生の推薦委員と人推協の委員をさせていただいている中で感じることです。他の役もそうですが、地域からなかなか役を引き受けてくださる方が無く選出に困っています。小学校、中学校の段階からそういう役の方がどのようにして選ばれているかというのをお話する機会を設けて、「いつか自分達も成長したら役割を担う方になるのだ」という心構えを少しずつ付けていくような機会があればと思います。特に人権委員の幹事も今選出にかなりご苦労されているということです。例えば、成人式の集いなどで、同学年が集う時などに各地域から、中学校単位かもう少し小さい単位かは分かりませんが、その中から選出して若い世代に人権の役などを任せてみてはどうかと思う事があります。その場合のメリットとしては、まず南丹市全体に各町でのリーダーシップを取るような若者が横の繋がりが出来る。同学年の旧町を越えた繋がりが出来るのではないかとということと、会合に出席することによって自分の住んでいる地域の縦の色んな年代との繋がりが出来ていくのではないかと思います。

今、民生委員の方にしても小学生、中学生と接する機会がありますが、どこで選ばれてどのようにというところが、実際、私も役をやらせてもらって身近に感じる。どうやって選ばれているのか見えにくい部分なので、自分達もいつか地域で役割を担っていくという話が出来ることが順々にあればと思います。

[市長]

いわゆる地域の組織なり、色んな団体の担い手としての教育、自覚を高めるという一つの提案がございました。民生委員さんは学校で色々なイベントに出入りしていただくのですが、実際、来賓紹介でのご挨拶ぐらいで、お話はないわけです。民生委員さんの学校の中での取り組み、そういう民生委員さんのお話をさせていただいたり、活躍の状況をご報告いただいたり、そういうようなことは現状ではないように思います。

[説明員]

学校よっての取り組みにはなりますが、民生児童委員さんに学校に来ていただいて、授業参観をしていただいたり、その後に教員と民生児童委員さんが懇談をされたりする機会をとっている学校もあります。そういう所は、割と学校の様子を民生児童委員さんに分かっていたり、良い取り組みだということで、最近そういう取り組みをされているところが少し出てきているのかなと認識しております。

[市長]

先ほど、成人式の際に積極的に役に就いてもらったかどうかということはどういうことですか。

[委員]

人権委員の幹事についてです。地域の方からの選出というのは、なかなか手がないと聞きまして、成人式の時かまたは準備をされる段階か、18歳、19歳、20歳か、何か皆さんが一堂に会するような時に人権委員さんになっていただく方を見つける工夫をやってはどうかと思いました。

全然違いますが、私が育ってきた学校の中で一生に一回、同窓会の幹事をする事がございまして、それが卒業と同時に決まるのです。一生に一回、そういうことをして、その時に同窓会などを大きく企画することがあります。そのようなことを思いついたので、お年の方でなくてもいいのではないかと。人権の研修・勉強会というのは若い方の力を借りても勉強にもなります。そういう取り組みもいいのではないかと。思いました。

[市長]

ありがとうございます。今日、人権の担当部署が来ておりませんが、確かに誰をどう出していくのか、かなり苦勞をしているようです。思い切って世代をうんと若くして参画いただくというのも非常に有意義な提案だと思います。ご意見はまた伝えていただけますか。

[説明員]

今、人推協の幹事さんとしてお世話になっています。やはりその場所に行っていて、委員の構成を見ていただく中で、なかなか地域からの代表が決まりにくいということがあって、肌で感じていただいていると思いますので、今のご提案、若い方から人権の役職をしていただくという意味でも出ていただくことは大事なことです。担当者には伝えますが、大きな検討課題と感じております。

[市長]

民生児童委員さん自身も、小さな集落ですと本当に選べないという状況も出てきています。幸い昨年11月末の改選時には何とかおさまったということですが、もっていくところがないし、区長さんが「仕方ない。逃げられない」言って、大変な所もあり、議会でもご質問をいただいております。ありがとうございます。

全体に地域社会を支えて行く担い手が、特に若い人が出て行ったり、サラリーマン化している中で地域に残っている人がいない。なかなか選出出来ないという実態もございまして。また、消防団のなり手がいないなども大変な状況ですが、そういった意味では、今の大人世代が積極的に「仕方ないな」という思いでも参画しているかということ、逃げる人がものすごく増えています。結局、同じ人ばかり、

忙しい人ばかりになっています。そういうところから変えていかないと。そういう意味では思い切って若い人に早くから役に就いてもらうのも、ひょっとしたら上手くいくかもというご提案として受け止めさせていただきます。人推協の場でもお伝えいただきたいと思います。

<3> その他

[市長]

その他、何かございませんか。

(特になし)

今日は重要な話もありましたので、重く受け止めまして、今後の市政の中、教育行政との連携の中で取り組みを深めていきたいと思いますので引き続きご協力をよろしくお願いします。

<4> 閉会

[事務局]

以上をもちまして、令和元年度第1回南丹市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。